

26年9月分 素材生産業者の活動・先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成26年 8月20日～ 26年9月10日

2. 調査実施方法

全国の素材生産業者に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
9月分の回答企業数は7社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={「増加」の評価を行った回答の割合}×2+{「やや増加」の評価を行った回答の割合}-{「減少」の評価を行った回答の割合}×2-{「やや減少」の評価を行った回答の割合}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

素材生産動向

品目		26/9月	10月	11月
伐採動向	スギ	25.0	33.3	8.3
	ヒノキ	20.0	10.0	0.0
	カラマツ	△ 100.0	△ 100.0	△ 100.0
	エゾ・トド	0.0	0.0	0.0
出荷・販売動向	スギ	25.0	33.3	16.7
	ヒノキ	0.0	10.0	10.0
	カラマツ	△ 100.0	△ 100.0	△ 100.0
	エゾ・トド	△ 50.0	△ 50.0	△ 50.0
手持立木在庫動向	スギ	△ 30.0	△ 10.0	△ 20.0
	ヒノキ	△ 50.0	△ 50.0	△ 50.0
	カラマツ	△ 50.0	△ 50.0	△ 50.0
	エゾ・トド	0.0	0.0	0.0

・スギの伐採は3ヶ月連続の増加、ヒノキは9月、10月の増加が11月は横ばいに、カラマツは3ヶ月連続の大きな減少、エゾ・トドは3ヶ月連続の横ばい。
・スギの出荷・販売は3ヶ月連続の増加、ヒノキは9月の横ばいが10月、11月は連続しての増加、カラマツは3ヶ月連続の大きな減少、エゾ・トドは3ヶ月連続の大きな減少。
・手持立木在庫は、スギ、ヒノキ及びカラマツは総じて3ヶ月連続の大きな減少、エゾ・トドは3ヶ月連続して横ばい。

モニターからのコメント

(伐採動向)

- ・国有林のトドマツ間伐請負の生産現場で順調に生産中。
- ・10月からスギ、ヒノキの買い取り立木の伐採を始める。
- ・自社買い取りのスギ、ヒノキの皆伐中心に作業。

(出材・販売動向)

- ・トドマツ素材の公売では、製材適木は順調に販売され、原材料はバイオマス発電原料としての応札が見られる、合板用材は値下げと出荷制限がある。
- ・スギ、ヒノキは雨が続けば減産。
- ・スギ、ヒノキの皆伐で作業効率が良く出材増。

(手持ち立木在庫)

- ・トドマツの在庫はあるので優良物件にのみ応札予定。
- ・スギ、ヒノキの民材を購入。